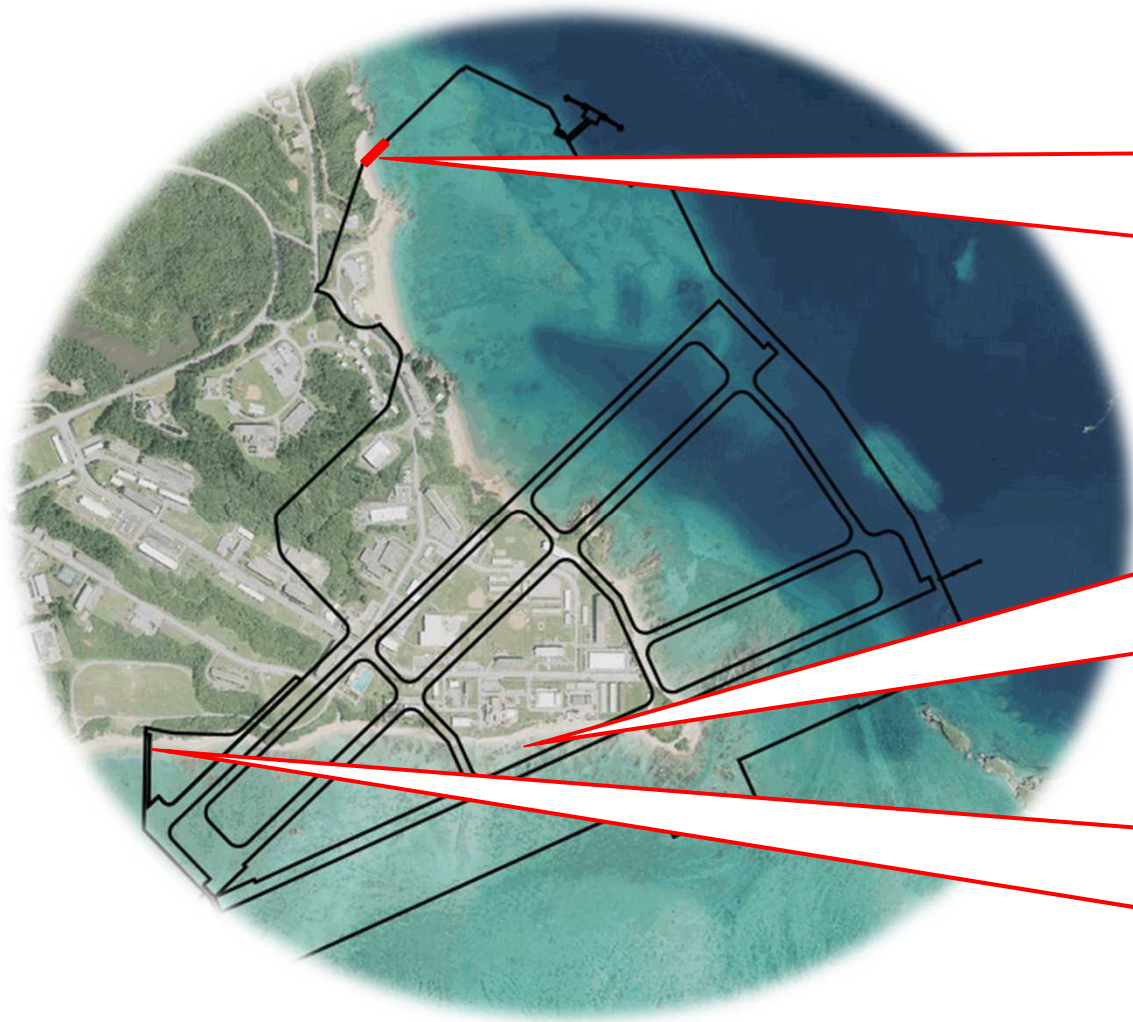


# 工事の実施状況等について

平成29年12月

沖縄防衛局

## 工事の実施状況について



※事業の安全かつ円滑な実施の観点から、表示していません。

※事業の安全かつ円滑な実施の観点から、表示していません。

※事業の安全かつ円滑な実施の観点から、表示していません。

○ 海上搬入時の接岸・離岸方法について

- ・ 資材(石材等)の搬入について、更なる環境負荷の軽減及び施工の円滑かつ効率化を図るため、資材の一部についてK-9護岸より海上搬入を実施(11月14日)。
- ・ その際、環境への影響を可能な限り低減するよう、以下の手法により、接岸・離岸を実施したところ、底質の巻き上げ等による水質の濁りは確認されなかった。

	接岸準備	接岸	離岸
平面	※事業の安全かつ円滑な実施の観点から、表示していません。		
断面			
説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>● K-9護岸からクローラークレーンを用いて護岸付近にアンカー等を設置</li> <li>● ランプウェイ台船の押船のスクリューを浅海域の手前の位置で停止</li> <li>● 押船の沖合側に小型船舶を配置し両船をロープをもって接続</li> <li>● 小型船舶を用いてK-9護岸側のアンカー等とランプウェイ台船とをワイヤーロープをもって接続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小型船舶を用いて沖合側にアンカー等を設置</li> <li>● ランプウェイ台船のウインチを巻き上げ前進(押船のスクリューは停止)</li> <li>● 所定の位置まで前進移動したら、沖合側の小型船舶でブレーキをかけ停船</li> <li>● 風や波浪の影響が強い時は、小型船舶にて沖合側のワイヤーロープを沖合側のアンカー等と接続しロープを張る</li> <li>● ランプウェイをK-9護岸に下す</li> <li>● 後方の小型船舶のロープを切り離す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 押船の沖合側に配置した小型船舶と押船とをロープをもって接続</li> <li>● ランプウェイをK-9護岸から上げる</li> <li>● K-9護岸側及び沖合側のワイヤーロープを切り離し、小型船舶で押船及びランプウェイ台船を浅海域外まで引き出す</li> <li>● 浅海域外において押船のスクリューを使用し、ランプウェイ台船の位置を制御</li> </ul>

# レッドリストサンゴの生息状況について

## 1. レッドリストサンゴの生息状況について

第9回環境監視等委員会において、今回辺野古側で確認されたオキナワハマサンゴ1群体(以下「当該オキナワハマサンゴ1群体」という。)について、事務局から、「白化が進んでいることから、移植による回復の可能性も考慮し、できる限り早期の移植ができるよう、県知事からの特別採捕許可が速やかに得られるよう努める。」旨説明したところ、委員から、「現在一部白化しているサンゴを移植するということであるが、9月になり水温が下がって白化から回復している可能性が高いが、サンゴの生息状況を確認しながら移植されたい」旨の指導・助言がなされたところ。

その後、平成29年10月26日、沖縄県に対し特別採捕許可を申請しており、許可が得られ次第速やかに移植する予定。

(1)オキナワハマサンゴ1群体の生息状況について定期的に観察を行った結果は以下のとおり。



確認当初(7/5撮影)

群体色も濃く健全。

(8/18撮影)

全体的に色が薄くなっており軽度な白化。

(9/18撮影)

前回よりもさらに色が薄く、部分的な白化を確認。



(10/4撮影)

前回に比べ群体色が濃く、回復傾向にあると思われる。

(10/17撮影)

外見上は健全な群体と判断できるまで群体色が回復。

(10/24撮影)

健全な群体であり、触手を伸ばしている状況を確認。



(10/31撮影)

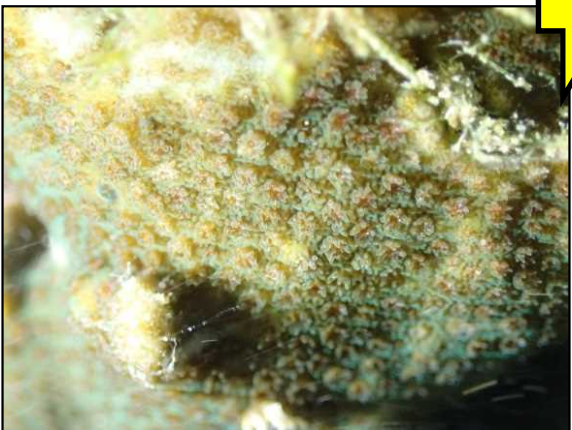
健全な群体であり、触手を伸ばしている  
状況を確認。

(11/7撮影)

健全な群体。

(11/14撮影)

健全な群体であり、触手を伸ばしている  
状況を確認。



(11/21撮影)

(11/28撮影)

健全な群体であり、触手を伸ばしている  
状況を確認。

健全な群体であり、触手を伸ばしている  
状況を確認。

オキナワハマサンゴ1群体については、白化から回復し、健全で移植可能な状態が確認できており、その白化の原因は、病気ではなく夏季の高水温の影響によるものと考えられる。また、病気と考えられる外見上の特徴も見られず。

今後とも引き続き定期的に観察を行い、できる限り早期に移植することが可能となるよう、沖縄県知事からの特別採捕許可が速やかに得られるよう努めているところ。

## (2)オキナワハマサンゴ1群体確認地点等における水温の変化と週積算水温の評価

現在の水温の状況は沖縄の最暖期(8月)の平均水温28.92°Cを確実に下回り、辺野古側埋立区域での護岸工事着手(平成29年11月6日)後、サンゴの白化指標である週積算水温※が加算されないことから、当分の間、護岸工事の実施による当該オキナワハマサンゴ1群体への影響はなく、生息環境は維持されているものと認識。

### ※週積算水温

1週間単位での測定平均水温が過去の最暖期(8月)平均水温よりX°C上昇したとすれば、その上昇分の水温を上昇した週分だけ1週間単位で積算(累積)した水温のこと(平均水温より上昇分のみを積算、連続しなくても可)。

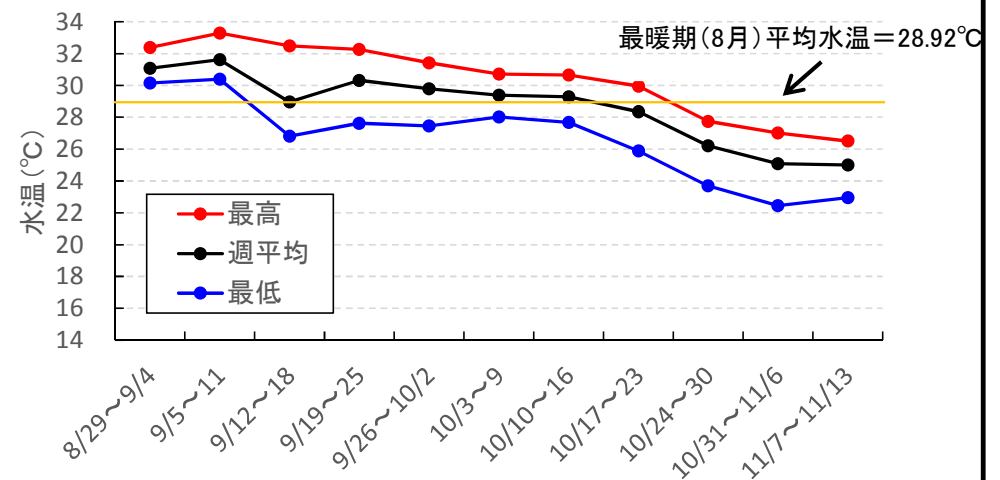
例えば、8月第1週から平均水温より0.5°C上昇し、以降、当該週が5週存在したとすれば週積算水温は2.5°Cになる。



※重要な種の保護の観点から表示していません。

最暖期(8月)平均水温=28.92°C

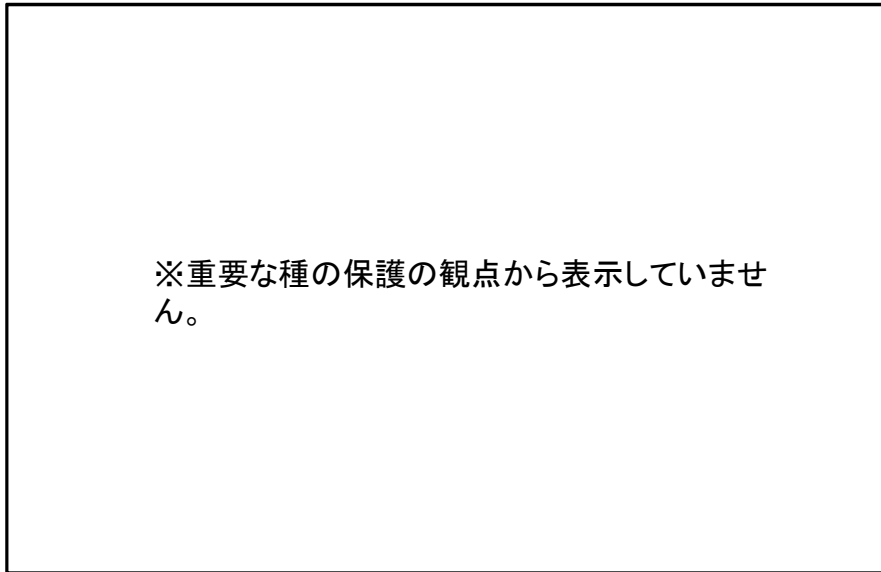
期間	水温(°C)			DHW(°C)		備考
	最高	最低	週平均	当該週	週積算水温(12W)	
8/29~9/4	32.38	30.14	31.09	2.17	2.17	-
9/5~11	33.29	30.39	31.62	2.70	4.87	2週間累積
9/12~18	32.48	26.82	28.96	0.04	4.91	3週間累積
9/19~25	32.25	27.63	30.32	1.40	6.31	4週間累積
9/26~10/2	31.43	27.46	29.78	0.86	7.17	5週間累積
10/3~9	30.72	28.02	29.38	0.46	7.63	6週間累積
10/10~16	30.65	27.68	29.29	0.37	8.00	7週間累積
10/17~23	29.97	25.89	28.35	0.00	8.00	8週間累積
10/24~30	27.75	23.69	26.20	0.00	8.00	9週間累積
10/31~11/6	27.01	22.44	25.09	0.00	8.00	10週間累積
11/7~11/13	26.50	22.94	25.00	0.00	8.00	11週間累積



(3) オキナワハマサンゴ1群体確認地点等における水温の評価

調査期間(10/3～11/3)における水温の状況は、10月中旬では、27.5～30.5℃の範囲で推移。10月下旬において、台風21号および台風22号の通過に伴う海水混合による水温の低下を確認。通過後の11月上旬は、24.5～27.0℃の範囲で推移。

他の地点と比較し、①の地点で当該サンゴの生息環境に影響を与える、特異なデータは得られなかった。



※重要な種の保護の観点から表示していません。

図-1 調査位置図

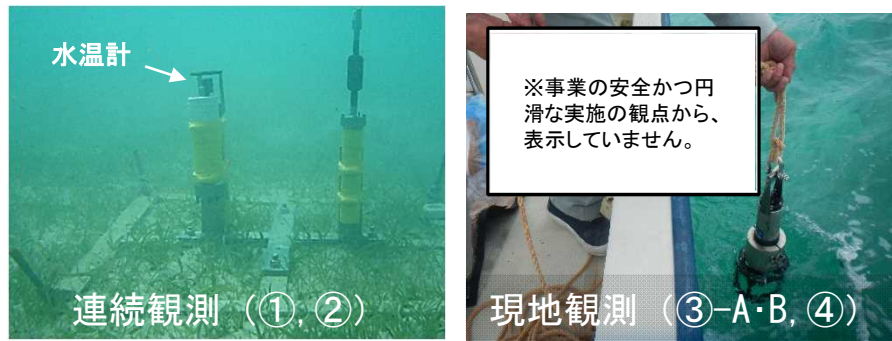


図-2 調査状況

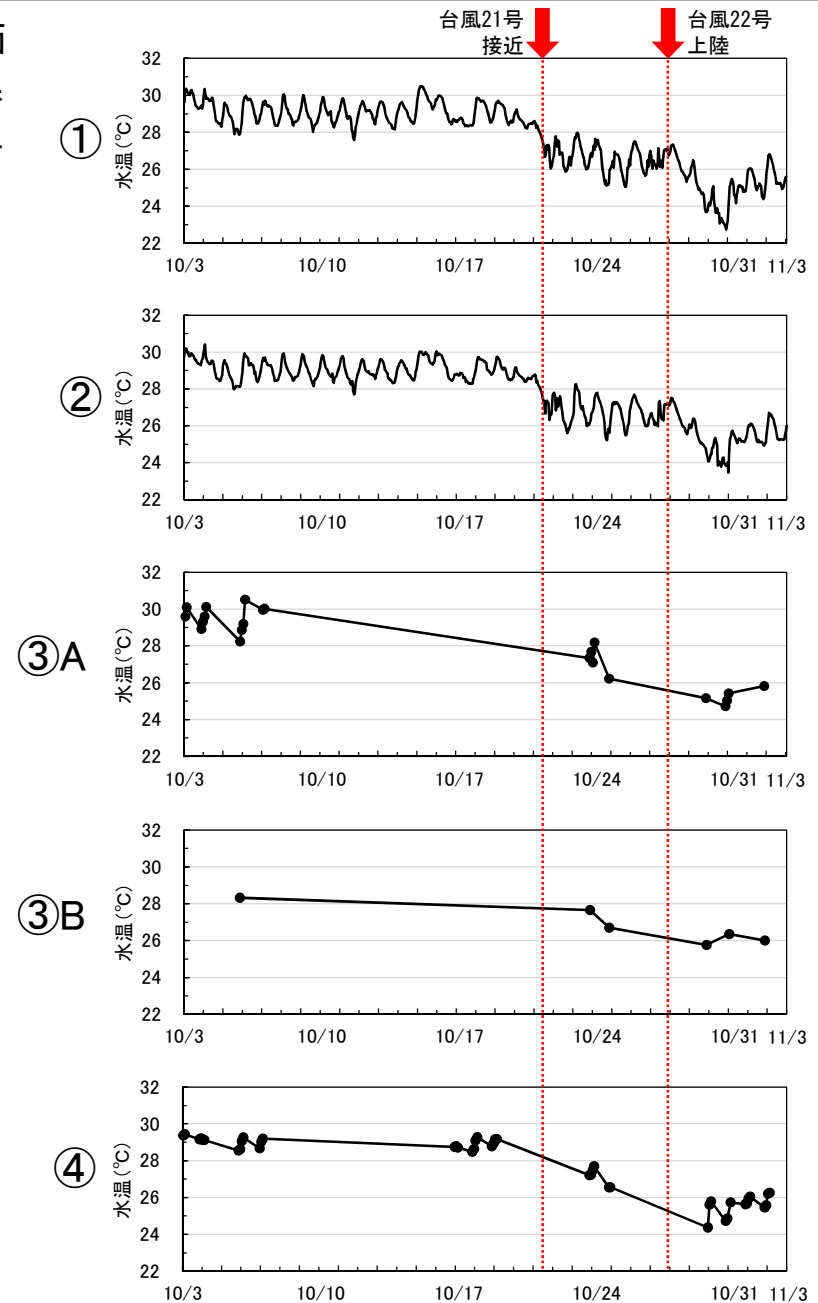
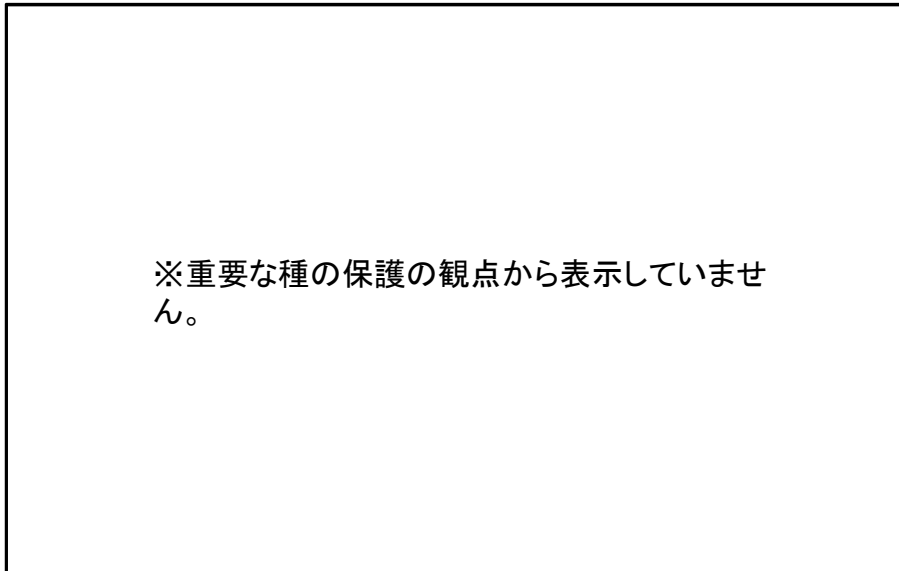


図-3 調査結果

(4)オキナワハマサンゴ1群体確認地点等における流速の評価

調査期間(10/3～11/3)における流速の状況は、5地点ともに10cm/s以下の弱い流れが全体の9割以上を占めている。また、流向は、西～北西方向への流れが全体の4～6割を占める。

他の地点と比較し、①の地点で当該サンゴの生息環境に影響を与える、特異なデータは得られなかった。



※重要な種の保護の観点から表示していません。

図-1 調査位置図

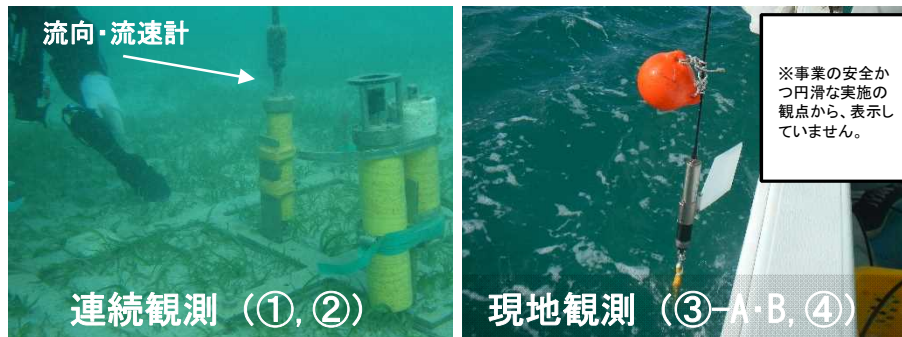


図-2 調査状況

表-1 調査結果 (単位:回)

①

流速\流向	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	小計
0～5cm/s	65	78	72	54	30	53	105	143	600
5～10cm/s	9	9	9	10	5	2	23	43	110
10～15cm/s	3	1	7	4	2	1	3	3	24
15～20cm/s			2	4	2	1			9
20～25cm/s			1	1					2
25～30cm/s									0
小計	77	88	91	73	39	57	131	189	745

②

流速\流向	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	小計
0～5cm/s	52	25	19	27	26	99	239	98	585
5～10cm/s	11	8	4	6	4	22	68	15	138
10～15cm/s		2	2	3	1	1	4	1	14
15～20cm/s	1	2					1		4
20～25cm/s	1		1				1		3
25～30cm/s				1					1
小計	65	37	26	37	31	122	313	114	745

③A

流速\流向	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	小計
0～5cm/s	1		2	1	2	6	5	1	18
5～10cm/s							3	2	5
10～15cm/s									0
15～20cm/s									0
20～25cm/s									0
25～30cm/s									0
小計	1	0	2	1	2	6	8	3	23

③B

流速\流向	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	小計
0～5cm/s					1	2	3		6
5～10cm/s					1				1
10～15cm/s									0
15～20cm/s									0
20～25cm/s									0
25～30cm/s									0
小計	0	0	0	0	2	2	3	0	7

④

流速\流向	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW	小計
0～5cm/s	3	2	5	2	1	5	2	4	24
5～10cm/s	1	1		1	6	6	1	1	17
10～15cm/s					2	1			3
15～20cm/s									0
20～25cm/s									0
25～30cm/s									0
小計	4	3	5	3	9	12	3	5	44

(5) オキナワハマサンゴ1群体確認地点等における塩分の評価  
 調査期間(10/3 ~11/3)における塩分の状況は、通常時  
 では概ね34.5~35.0の範囲で推移している。観測期間中は、  
 台風21号と台風22号による降雨があり、①及び②の地点  
 で塩分の低下を確認。

他の地点と比較し、①の地点で当該サンゴの生息環境に  
 影響を与える、特異なデータは得られなかった。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

図-1 調査位置図



図-2 調査状況

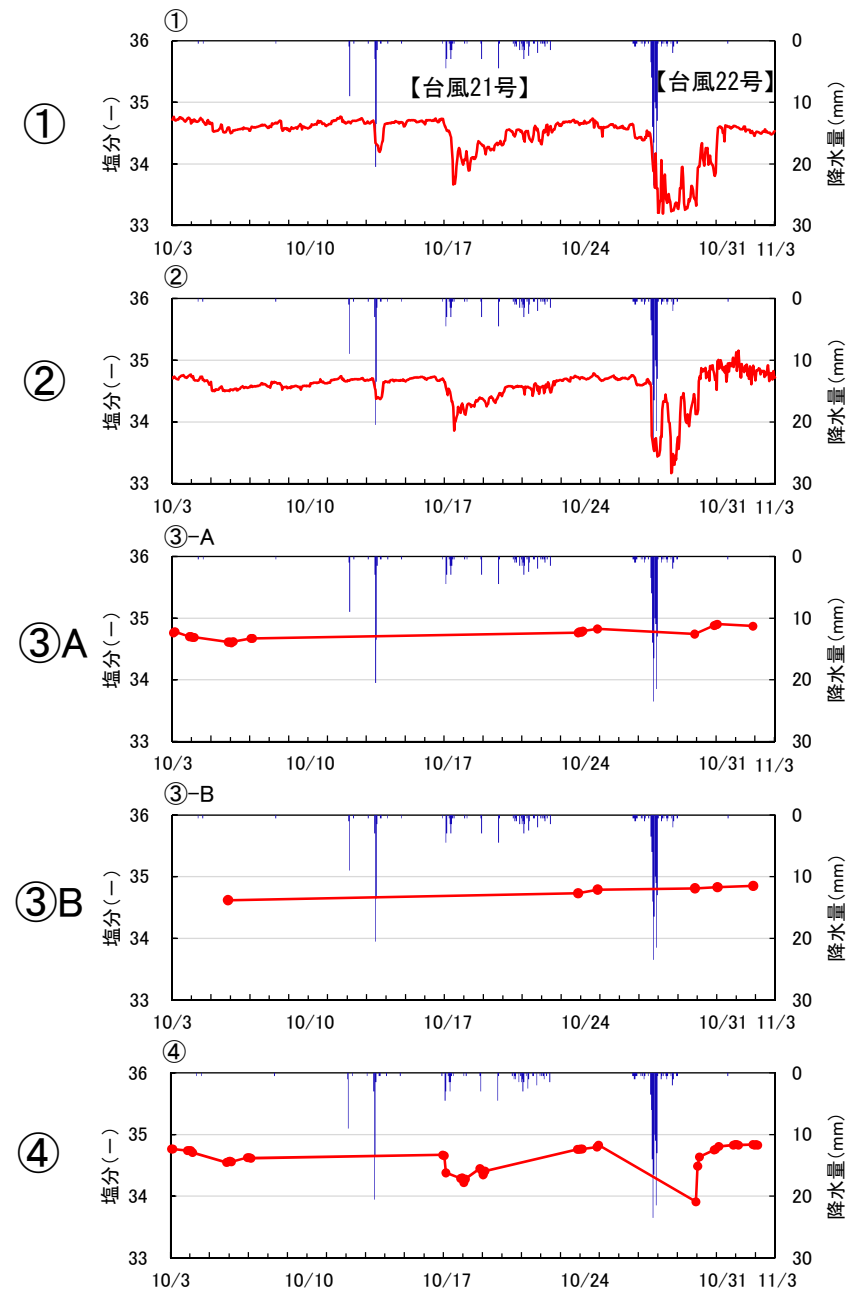


図-3 調査結果

(6)オキナワハマサンゴ1群体確認地点等における濁度の評価

調査期間(10/3～11/3)における濁度は、通常時では概ね1FTU前後で推移しているが、満潮時には、外洋からの波浪の影響を受け、水深が浅いことから、砂等の巻き上げにより2～4FTU程度まで上昇することを観測している。また、台風21号と台風22号による濁度の上昇も観測された。

自然状態(台風、満潮時)において、濁度の上昇が観測されているが、当該サンゴへの影響はなく、健全な状態であった。

引き続き、継続的に観察及び観測を行い、当該サンゴの生息環境を確認する考え。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

図-1 調査位置図



図-2 調査状況

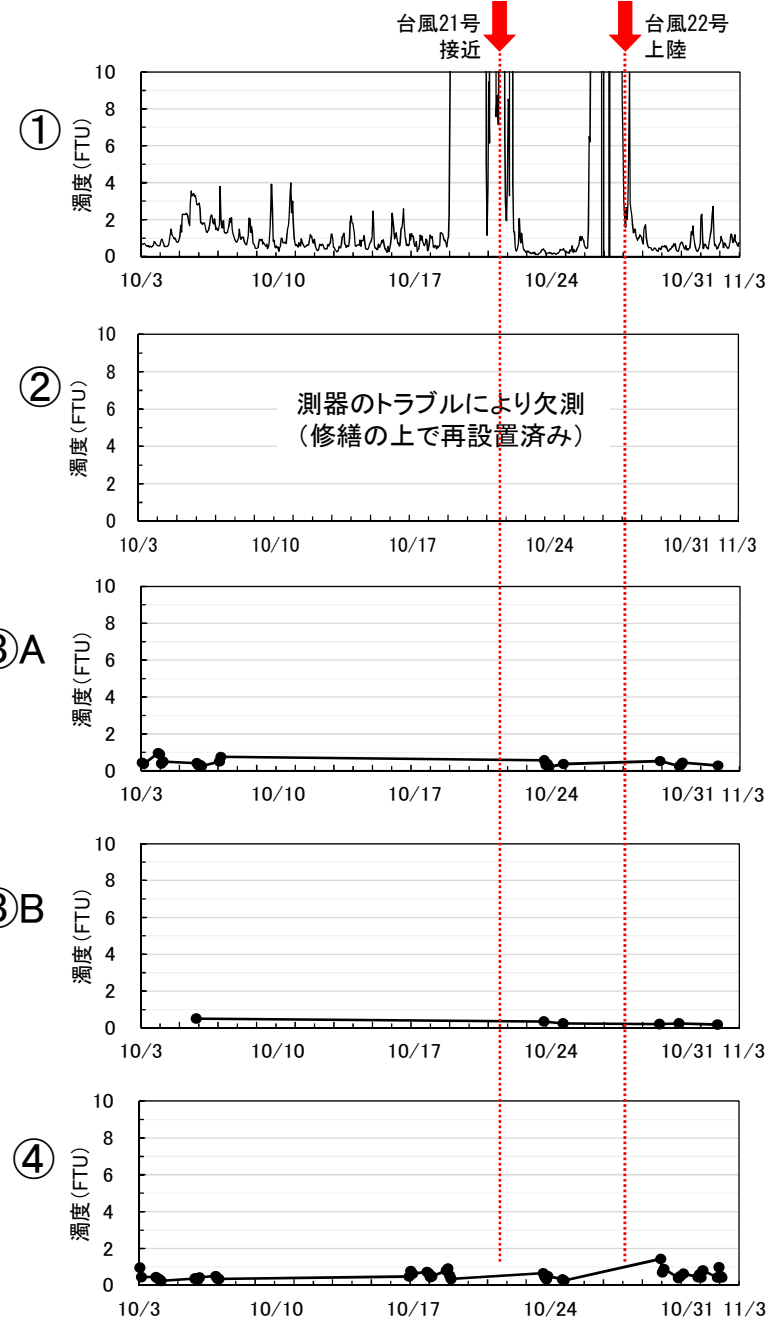


図-3 調査結果

(6) 移植先のサンゴ類の状況について

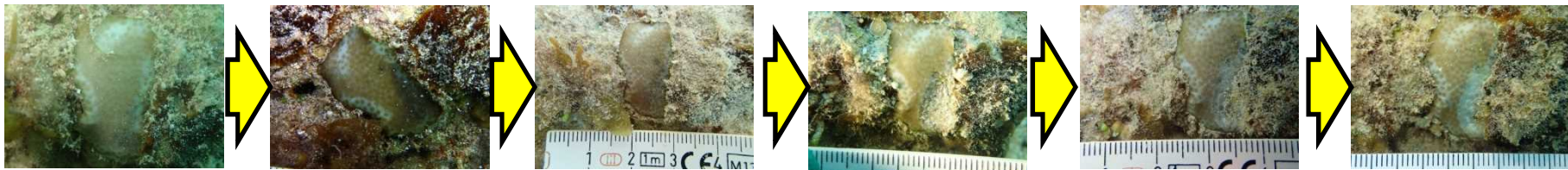
移植先におけるオキナワハマサンゴの生息状況について観察を行った※。当該サンゴの状況は、部分的又は全体的に白化している状態であったが、回復傾向にある群体も見られることから、オキナワハマサンゴ1群体の移植先として問題ないと評価。なお、当該生息状況について、引き続き観察することとしている。

※オキナワハマサンゴ・5については、水深1m程度の移植先近傍の水深3m程度に生息するもの。

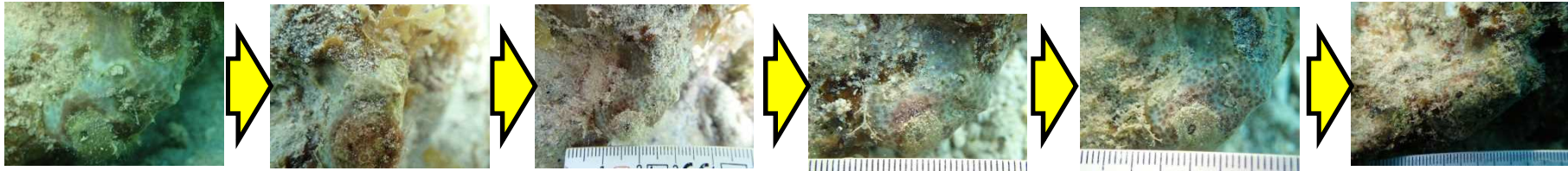
オキナワハマサンゴ・1



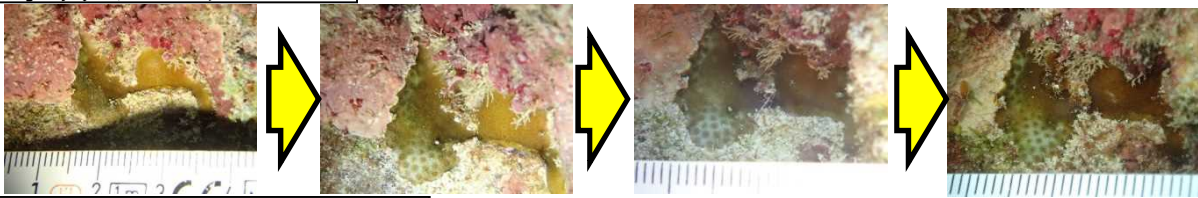
オキナワハマサンゴ・2



オキナワハマサンゴ・3



オキナワハマサンゴ・4



オキナワハマサンゴ・5 ※群体色が濃くなってきており、回復傾向にある。



(10/4撮影)

(10/16撮影)

(10/24撮影)

(11/1撮影)

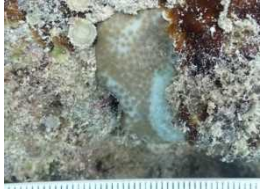
(11/7撮影)

(11/14撮影)

オキナワハマサンゴ・1



オキナワハマサンゴ・2



オキナワハマサンゴ・3



オキナワハマサンゴ・4



オキナワハマサンゴ・5



(11/21撮影)

(11/28撮影)

## 2. 護岸工事に伴うオキナワハマサンゴ1群体及び

※重要な種の保護の観点から表示していません。

## への影響について

### (1) 水の濁りシミュレーションの結果

第9回環境監視等委員会において、「施工の進捗に応じ、水の濁りシミュレーション及び流況シミュレーションを同様に行い、結果が得られ次第、本委員会委員へ報告し、オキナワハマサンゴへの影響がなく、生息環境が維持されることを確認した上で施工を行う考え。」である旨を説明。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

着手時の施工に伴う水の濁りの拡散シミュレーションの結果（最接近時は前回委員会で提示）、

汚濁防止柵を二重化することにより、オキナワハマサンゴ1群体及び

※重要な種の保護の観点から表示していません。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

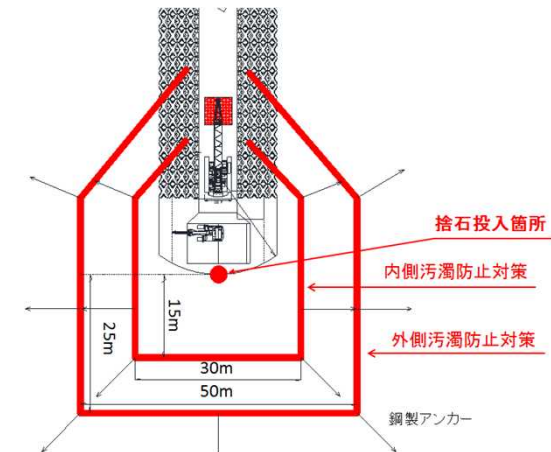
周辺の水の濁りは、海藻類や魚介類に対する濁りの影響濃度に関する知見を基に設定され（水産用水基準（日本水産資源保護協会。2006））、サンゴ類が生息する海域を含め、海上工事中の水の濁りの影響の環境監視基準として広く適用されている環境保全目標値2

mg/Lを下回る結果が得られたことからすれば、当該施工に伴い、オキナワハマサンゴ1群体及び

の生息範囲には同値を超える濁りは拡散しないと予測され、その生息環境は維持されるものと認識。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

濁りの予測コンター図(冬季)



汚濁防止柵の二重化（イメージ）

※重要な種の保護の観点から表示していません。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

着手時の施工に伴う水の濁りの拡散シミュレーションの結果、汚濁防止枠を二重化することにより、サンゴ類が生育する海域を含め、環境保全目標値 2 mg/L を下回る結果が得られたことからすれば、当該施工（50m程度延伸時）に伴い、オキナワハマサンゴ 1 群体及び ※重要な種の保護の観点から表示していません。 の生息範囲には同値を超える濁りは拡散しないと予測され、その生息環境は維持されるものと認識。

しかしながら、 ※重要な種の保護の観点から表示していません。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

引き続き水の濁り等のモニタリングを継続しつつ、沖縄県知事から特別採捕許可が得られ次第、可能な限り速やかに移植することを追求する考え。

## (2) 流況シミュレーションの結果

※重要な種の保護の観点から表示していません。

【施工時】

### 1) 辺野古側前面海域全体

#### ①流れの変化

- ・護岸工事箇所周辺における冬季の流速は1～2 cm/s であり、局所的には2 cm/s を超える流速も見られる。
- ・現況と護岸の施工時点（将来）を比較すると、護岸から100～200mの範囲で±1cm/sの流速の変化域がみられ、※重要な種の保護の観点から表示していません。では2 cm/s を超える変化域も見られる。

#### ②水温の変化

- ・護岸工事箇所周辺における冬季の水温は平均で20.5～22.0℃。
- ・現況と護岸の施工時点（将来）を比較すると、護岸から100～200mの範囲で0.1℃の水温低下域がみられ、護岸のごく近傍では0.2℃の低下域も見られる。

#### ③塩分濃度の変化

- ・塩分濃度の変化はなし。

※重要な種の保護の観点から表示していません。

### 2) オキナワハマサンゴ1 群体及び

※重要な種の保護の観点から表示していません。

への影響

- ・流速の変化は護岸から100～200mの範囲に限られ、また、水温の変化については、護岸西側でのみ最大で0.2℃の低下と予測されるため、オキナワハマサンゴ1 群体及び※重要な種の保護の観点から表示していません。の分布位置には及ばず。

## 【参考】特別採捕手続に係る沖縄県との調整状況について

○平成29年11月15日付で沖縄県より文書で説明要求を受けたが、以下の内容（概要）で11月24日付で回答済。

### 1. 採捕しようとする水産動植物について

- ・本件サンゴの状態は既に移植し得る状態まで回復しているものと考えているため、本件サンゴの移植を速やかに行い、その後の生息状況、成長度合いについてモニタリングを行うことにより、環境省版海洋生物レッドリストの掲載種であるオキナワハマサンゴの移植技術の向上を図りたい。

### 2. 採捕の期間について

- ・採捕に必要な期間として「許可の日から14日のうち1日」としているが、準備期間及び気象・海象を考慮した上で、移植作業を行うために必要な期間として設定したもの。
- ・本件サンゴ1群体は、水温についても夏季と比較して下がってきており、移植に適した状況にあり、また、病気と考えられる外見上の特徴は見られていない。
- ・移植作業に係る採取、運搬及び固定については、できる限り短時間で行うことにより、本件サンゴへのストレスを最小限に抑える。

### 3. 使用漁具及び漁法

- ・タガネとハンマーを用いた採捕方法は、小型サンゴ群体の採捕作業において一般的に用いられる方法であり、群体ごとに一つ一つ丁寧に採捕する方法としては最適。

### 4. その他、試験研究計画について

- ・船上水槽を用いる運搬方法は、移植元から移植先へ出来る限り短時間で移動することにより、本件サンゴへ与えるストレスを最小限に抑えることが可能。
- ・固定方法は、十分に安定した基盤を選択した上、同種事業において使用事例の多い水中ボンドをもって固定することとしており、荒天時に波当たりが強くなったとしても、流出等の問題は生じない。
- ・移植先の海域は、東西の水深が5～8mの溝が存在し、南北にのびた半島のような地形の上場付近に位置し、リーフカレントが発生した場合でも、その流れは移植先の両側に分かれ、直接的な影響を受けることはない。
- ・移植先のオキナワハマサンゴ5群体については、観察開始時点では一部が白化又は全体的に白化している状態であったが、現時点では一部のサンゴは群体色が濃くなり、回復傾向にあることを確認。

# 工事中における水の濁りの調査結果について

## ○ 工事中における水の濁り(SS)の監視調査について

- ・濁りの影響の環境保全目標値は、従来と同様、以下のとおり設定

工事箇所周囲: 4mg/L ※測定値による濁りの環境影響の判断基準は、バックグラウンド値(0.7mg/L)を考慮し、4.7mg/Lとする。

サンゴ類及び海草藻場の主たる分布域近隣: 2mg/L ※測定値による濁りの環境影響の判断基準は、バックグラウンド値(0.7mg/L)を考慮し、2.7mg/Lとする。

河川の河口付近: 基準は設定しない。

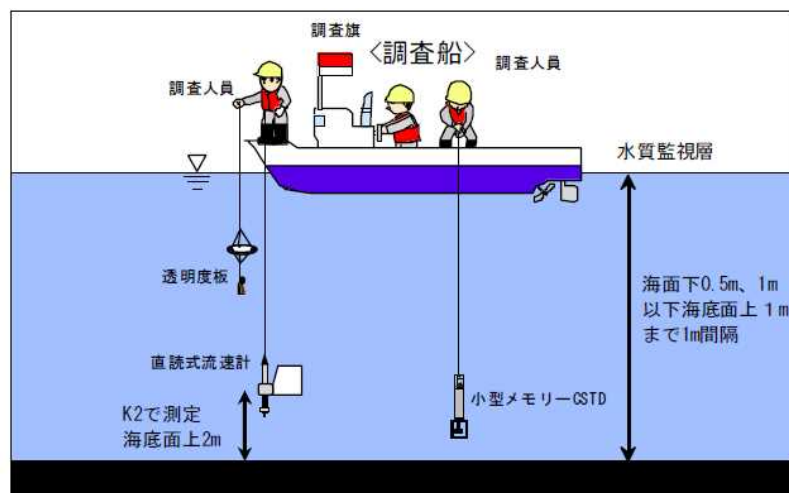
- ・測定方法は以下のとおりとする

測定時期: 工事期間中毎日、休工日を除き、施工開始前、午前、午後にそれぞれ1回

測定箇所: 海面下0.5mから海底面上1mまで1m間隔で濁度の鉛直測定を行い、関係式をもとにSSに換算

- ・濁りの影響の環境保全目標値を超過した場合の対応

工事の影響により濁りの影響の環境保全目標値を超過したと考えられる場合は、作業を一時中断し、対策案(必要に応じ、汚濁防止枠設置等の追加措置)を検討した上で、事業者から委員に説明し、指導・助言を得、かかる措置を講じた上で工事を再開。



調査状況（イメージ）

※濁度とSSの関係式 ⇒  $y=1.7x$   $y$ : SS(mg/L)、 $x$ : 濁度(度:FTU)

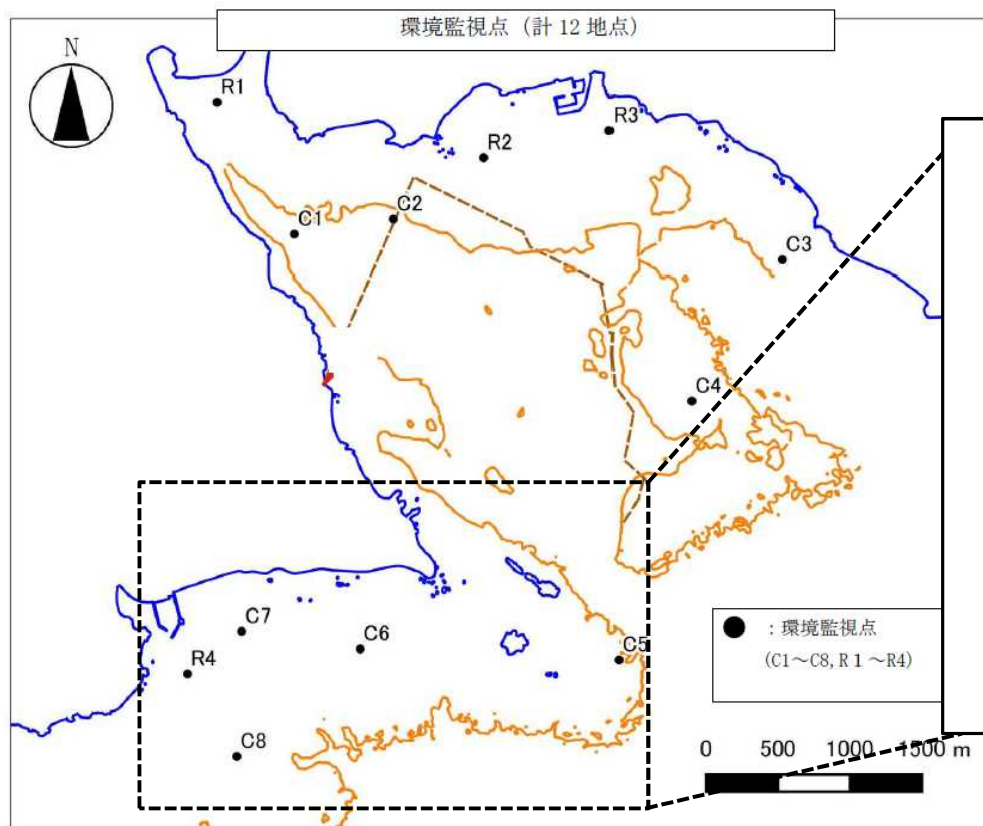
- ・現場海域の底質を用いて、室内にて複数の濁り濃度の海水試料を作成し、濁度の機器測定とSSの採水分析を行い作成

※SSのバックグラウンド値 ⇒ 0.7mg/L

- ・工事実施前に埋立区域周辺海域で行った濁度調査結果のうち、辺野古地先、大浦湾内の11地点で測定された濁度の平均値(0.4度:FTU)を濁度のバックグラウンド値として設定し、上記の関係式をもとに設定( $1.7 \times 0.4=0.7$ )

(参考) バックグラウンド値の設定方法

- ・辺野古側の工事期間中(平成29年9月7日～11月17日)、工事箇所周囲(K-1護岸周辺:K1-1～K1-3、N-5護岸周辺:N5-1～N5-3)、サンゴ類及び海草藻場の分布域近隣(C1～C8)並びに河川の河口付近(R1～R4)において、水の濁り(SS)を観測。
- ・その結果、基準値を超過した箇所もあるものの、濁りの発生原因は潮流、波浪等の要因が想定され、一概に濁りの発生原因及び拡散の原因のすべてを明らかにすることは困難である。他方で、当該工事箇所周囲の測定点においては、水深が浅く(水深1m程度)波浪による底質の巻き上げが発生しやすいこと、施工開始前から同等のSS値が確認されていたことなどから、当該工事が濁りの発生源でないものと考えられる。



※重要な種の保護の観点から表示していません。

K-1護岸及びN-5護岸施工時の測定地点(辺野古側全域)

C1～C8及びR1～R4地点配置図



# 工事中における水の濁り(SS)監視調査結果(最小値～最大値)

調査地点	工事箇所周囲 (基準: 4.7mg/L)														サンゴ類及び海草藻場の主たる分布域近隣 (基準: 2.7mg/L)												河川の河口付近 (基準: なし)								備考			
	K1-1		K1-2		K1-3		N5-1		N5-2		N5-3		C1		C2		C3		C4		C5		C6		C7		C8		R1		R2		R3			R4		
	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大		最小	最大	
水深 (m) (最小～最大)	1.1	~2.4	1.1	~2.5	1.2	~2.7	1.4	~2.9	1.3	~2.9	1.3	~2.9	19.2	~27.9	4.4	~28.1	2.0	~5.9	2.3	~7.4	2.2	~9.8	1.1	~3.6	0.8	~2.7	1.7	~5.3	0.8	~3.5	3.3	~5.6	2.6	~5.4	0.6	~2.9		
調査実施日	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大	最小	最大		
平成29年11月01日	曇	午前	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.3	3.4	1.0	1.3	-	-	-	-	-	-	0.6	0.6	1.1	1.1	0.3	0.3	5.7	7.9	1.0	1.1	1.1	1.8	1.3	1.3
平成29年11月02日	晴	午後	1.1	1.1	0.5	0.5	0.6	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	1.1	9.5	1.3	1.8	0.5	0.6	0.3	0.5	0.3	0.3	0.5	0.5	1.5	1.5	0.3	0.3	3.9	5.4	1.1	4.2	1.0	1.7	2.5	2.5
平成29年11月04日	曇	午後	1.0	1.0	0.6	0.6	0.8	0.8	1.0	1.0	0.6	0.6	0.6	0.6	1.1	1.7	1.0	1.3	0.1	0.3	0.3	0.3	-	-	0.3	0.3	0.6	0.6	0.3	0.3	4.0	4.0	0.8	1.0	0.6	0.6	0.5	0.5
平成29年11月06日	晴	午後	2.8	2.8	1.7	1.7	2.2	2.2	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8	0.6	6.2	0.5	1.0	0.1	0.8	0.3	0.3	-	-	0.8	0.8	1.7	1.7	0.3	0.3	2.3	2.7	1.3	1.5	0.6	1.7	3.2	3.5
平成29年11月07日	晴	午後	1.7	1.7	1.1	1.1	1.7	1.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.5	0.5	0.3	0.3	0.1	0.3	-	-	0.5	0.5	1.5	1.5	0.1	0.1	5.1	6.2	1.3	2.3	0.6	1.7	2.7	2.7
平成29年11月08日	晴	午後	2.7	2.7	2.2	2.2	2.7	2.7	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	3.5	0.5	1.8	0.6	0.6	0.3	0.5	0.1	0.5	0.6	0.6	1.3	1.3	0.1	0.3	4.9	6.1	2.5	6.1	1.1	2.7	2.3	2.5
平成29年11月09日	晴	午後	2.3	2.3	1.1	1.1	1.0	1.0	0.3	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	2.7	0.3	1.0	0.5	0.6	0.3	0.3	0.1	0.1	0.5	0.5	0.8	0.8	0.1	0.1	3.2	3.5	1.0	1.3	0.8	1.0	1.3	1.5
平成29年11月10日	曇	午後	2.3	2.3	1.5	1.7	1.5	1.8	0.8	1.0	1.0	1.0	0.8	1.1	1.5	5.4	0.5	1.1	0.5	0.6	0.3	0.5	0.1	0.1	0.8	0.8	1.3	1.5	0.1	0.1	5.9	9.1	1.0	1.3	0.6	0.8	3.0	3.2
平成29年11月11日	曇	午後	1.8	1.8	0.8	0.8	1.1	1.3	0.8	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.3	1.2	0.5	1.1	0.5	0.6	0.3	0.3	0.1	0.5	0.5	0.5	0.8	1.0	0.3	0.3	1.8	2.2	1.7	2.0	0.6	2.0	2.2	2.2
平成29年11月13日	曇	午後	1.1	1.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	1.0	4.0	0.6	1.1	0.3	0.5	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	0.1	1.0	1.0	0.1	0.3	3.7	7.8	0.6	1.7	0.6	1.0	0.8	0.8
平成29年11月14日	晴	午後	1.3	1.3	0.8	0.8	1.1	1.1	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3	0.5	0.8	3.4	0.4	0.9	0.3	0.7	0.2	0.4	0.1	0.2	0.3	0.5	1.0	1.0	0.5	0.5	4.1	4.5	0.7	1.0	0.3	1.1	0.8	1.0
平成29年11月15日	晴	午後	0.8	0.8	0.5	0.5	0.6	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	2.3	0.3	0.8	0.3	0.5	0.3	0.3	0.1	0.1	0.3	0.3	0.6	0.6	0.3	0.3	2.3	4.4	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6
平成29年11月16日	曇	午後	0.6	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	1.5	2.3	1.0	1.7	0.5	0.5	0.1	0.1	-	-	0.3	0.3	0.5	0.6	0.3	0.3	2.7	4.4	0.8	1.3	0.5	1.3	1.0	1.0
平成29年11月17日	曇	午後	3.9	3.9	2.3	2.3	2.3	2.3	0.8	0.8	0.6	0.6	0.8	0.8	1.3	8.1	0.8	1.3	0.3	0.8	-	-	-	-	0.8	0.8	2.2	2.2	0.1	0.1	18.8	19.5	1.7	1.8	0.8	1.1	6.4	6.4

- 注) 1. 表中の値は、調査船上から濁度計を用いて海面から海面下1mまで1m間隔で鉛直測定を行い、得られた濁度の観測値をSSに換算した値(単位:mg/L)の最小値～最大値を示す。  
 2. 工事箇所周囲における基準は、評価書における予測結果を踏まえ、バックグラウンド値(0.7mg/L)+4mg/Lとし、4.7mg/Lとした。  
 3. サンゴ類及び海草藻場の主たる分布域近隣における基準は、評価書において濁りによる影響の評価基準を「SS 2mg/L以下であること」としていることを踏まえ、バックグラウンド値(0.7mg/L)+2mg/Lとし、2.7mg/Lとした。  
 4. 工事箇所周囲の調査地点のうち、K1-1においてはレッドリストサンゴ確認箇所であることを踏まえ、基準を2.7mg/Lとした。  
 5. サンゴ類及び海草藻場の主たる分布域近隣の地点においては、工事箇所周囲において基準値を超える濁りが確認されていない時にも基準値を超える濁りが観測されたが、当該箇所は大浦湾奥部に位置し、海底に浮泥の堆積が著しい地点であること、また、基準値の超過は主に水深15m以深で発生しており、それ以外ではほとんどみられないことから、これらの濁りは工事によるものではなく、潮流等の要因による底泥の巻き上げ等によるものと考えられる。